

2010年3月期 第2四半期 決算説明会資料

1 連結業績の概要

2 連結業績について

3 市場動向について

4 2010年3月期 業績予想

5 その他の情報

We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来

GET INTO
GLOBAL
2011



世界的視野でビジネスチャンスをつえ
新たな成長ステージへ飛躍する！

当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。

当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動などのリスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、投資判断を決定する場合には、本資料の将来の見通しのみに依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。

また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。

連結業績概要 前年同期比

売上高

遊技市場向け機器の販売は好調であったものの、金融市場や流通市場、海外市場が低調で、前年同期に比べ減少。

利益

設備投資抑制や経費削減などに取り組んだものの、前年同期に比べ減少。

(百万円)	2009年3月期 第2四半期(累計)	2010年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比	2010年3月期 第2四半期(累計)予想 (2009年5月14日時点)
売上高	74,822	64,139	▲14.3%	65,000
うち 保守売上高	16,373 (21.9%)	15,644 (24.4%)	▲4.5%	16,000 (24.6%)
営業利益	6,848 (9.2%)	2,643 (4.1%)	▲61.4%	2,000 (3.1%)
経常利益	7,246 (9.7%)	3,767 (5.9%)	▲48.0%	2,000 (3.1%)
四半期純利益	4,661 (6.2%)	2,223 (3.5%)	▲52.3%	1,500 (2.3%)

売上高の変動要因

単位:百万円

海外市場

▲4,952

金融市場

▲4,223

自動販売機
市場

▲1,759

その他の
市場

▲1,246

流通・交通
市場

▲935

遊技市場

+2,432

64,139

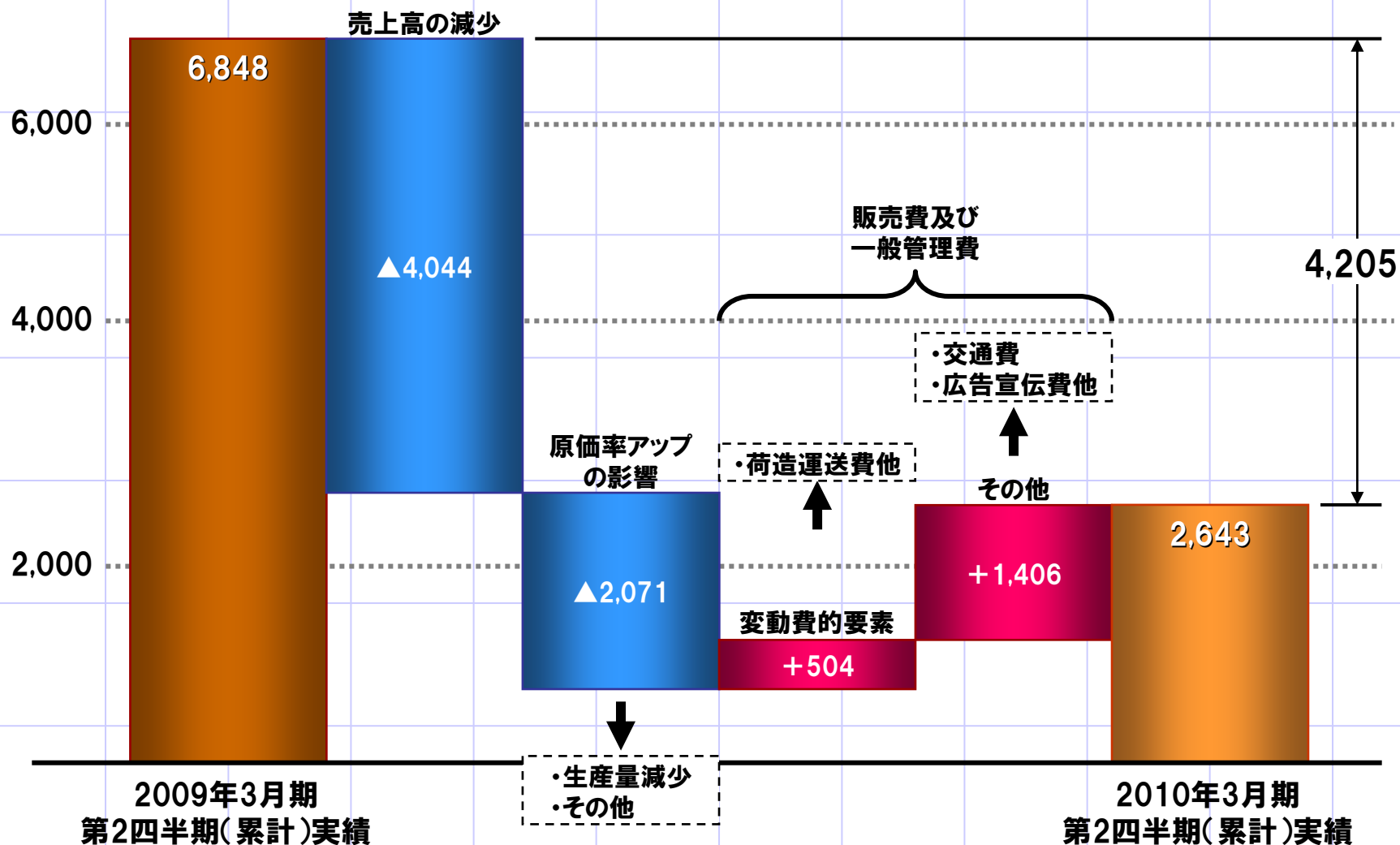
74,822

10,683

2009年3月期
第2四半期(累計)実績2010年3月期
第2四半期(累計)実績

営業利益の変動要因

単位: 百万円

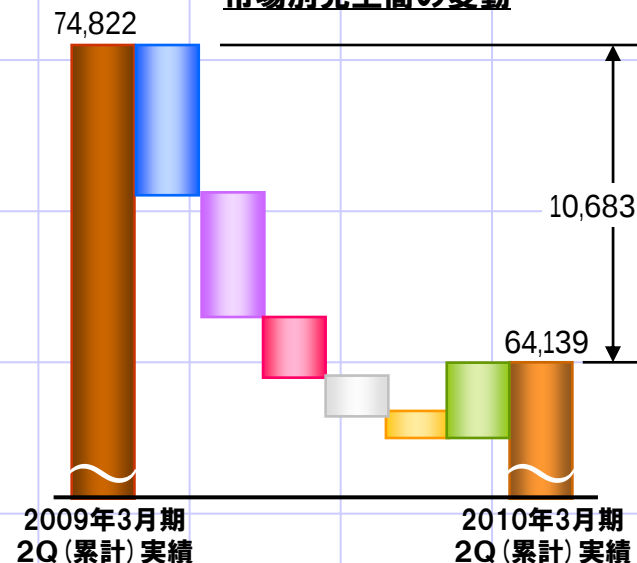


市場別・セグメント別売上高

(百万円)

市 場	2009年3月期 第2四半期(累計)	2010年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比
金 融	23,685	19,462	▲4,243 (▲17.9%)
海 外	18,014	13,062	▲4,952 (▲27.5%)
流通・交通	13,698	12,763	▲ 935 (▲ 6.8%)
自動販売機	4,951	3,192	▲1,759 (▲35.5%)
遊 技	11,387	13,819	+2,432 (+ 21.4%)
その他	3,087	1,841	▲1,246 (▲40.4%)

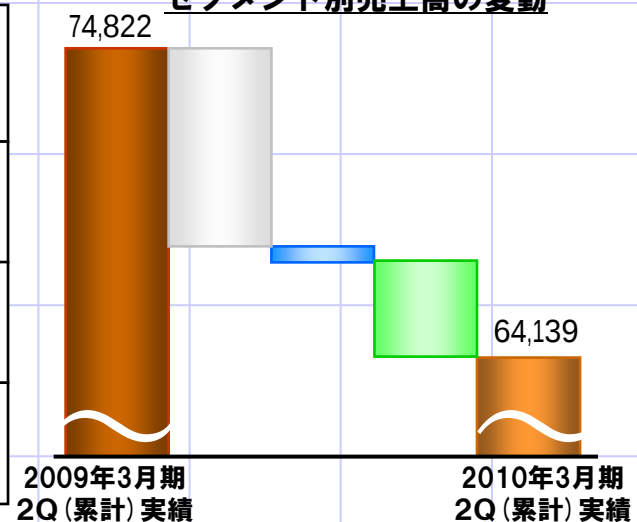
市場別売上高の変動



(百万円)

セグメント別	2009年3月期 第2四半期(累計)	2010年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比
貨幣処理機 及び貨幣端末機	44,997	37,665	▲7,332 (▲16.3%)
自動販売機 及び自動サービス機器	18,284	17,599	▲ 685 (▲ 3.7%)
その他の商品 及び製品	11,540	8,875	▲2,665 (▲23.1%)

セグメント別売上高の変動



● 基幹商品の販売が減少

業務厳正化・効率化に対するニーズは依然強いものの、金融危機の影響による設備投資の抑制などにより、前年同期に比べ、オープン出納システム、窓口用入出金システムのユニットの販売が減少。

業績に影響した主な製品

- ↓ オープン出納システム「WAVEシリーズ」
- ↓ 窓口用入出金システムのユニット



オープン出納システム
WAVEシリーズ



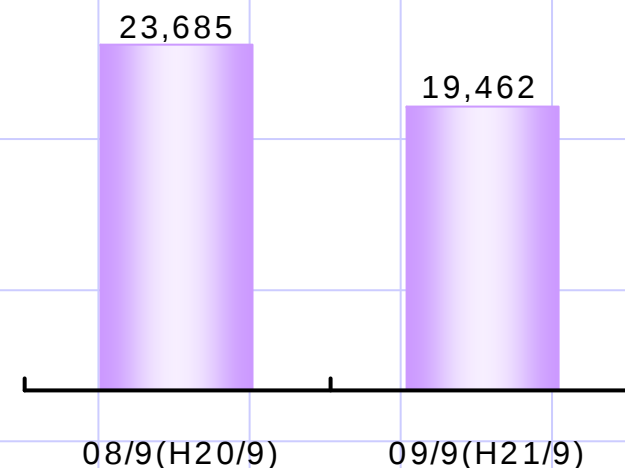
窓口用入出金システム
のユニット

(単位:百万円)

売上高	19,462	
前年同期比	▲17.9%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		23,685
総売上高 構成比率	30.3%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	7,958	11,504

売上高

(単位:百万円)



●OEM関連商品の需要が減少

設備投資の抑制傾向が強く、OEM商品である
ATM用紙幣入金ユニット、窓口用紙幣入出金機、
紙幣整理機等の販売が大きく減少。

業績に影響した主な製品

- ↓ ATM用紙幣入金ユニット「UDシリーズ」
- ↓ 窓口用紙幣入出金機「RZシリーズ」
- ↓ 窓口用紙幣入出金機「RBUシリーズ」



ATM用紙幣入金ユニット
UDシリーズ



紙幣入出金機
RZシリーズ



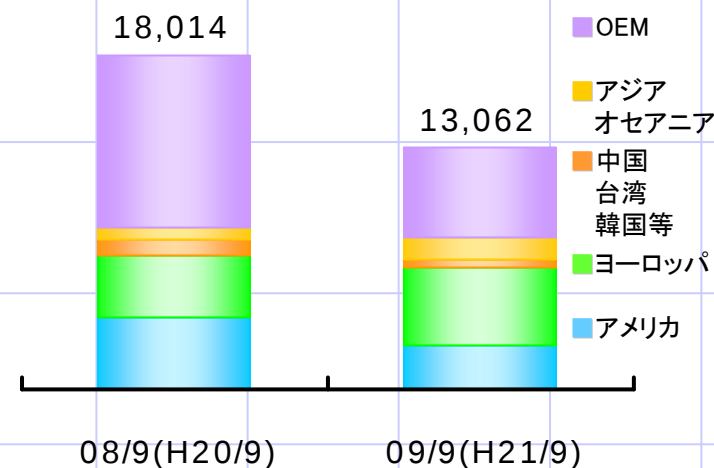
紙幣入出金機
RBUシリーズ

(単位:百万円)

売上高	13,062	
前年同期比	▲27.5%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		18,014
総売上高 構成比率	20.4%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	6,376	6,686

売上高

(単位:百万円)



●主要製品の販売が低調

個人消費低迷による流通業界全体の業績悪化の影響により、新規出店の抑制傾向などがみられ、主要製品であるレジ釣銭機や小型入金機の販売は低調。

業績に影響した主な製品

↓レジ釣銭機「RT・RADシリーズ」

↓入金機「DS・DSSシリーズ」



レジつり銭機
RT・RADシリーズ



入金機
DSシリーズ



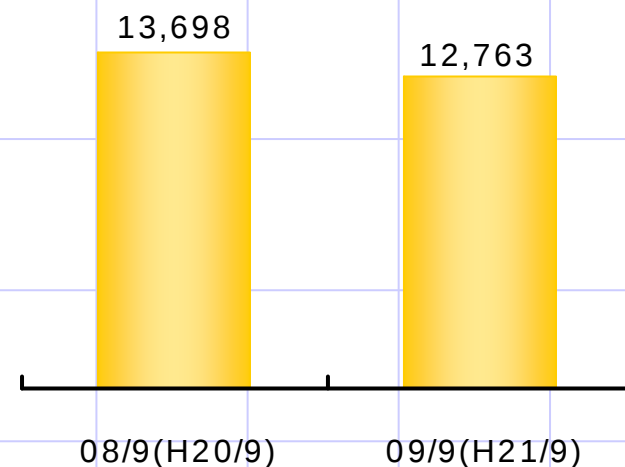
入金機
DSSシリーズ

(単位:百万円)

売上高	12,763	
前年同期比	▲6.8%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		13,698
総売上高 構成比率	19.9%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	5,680	7,083

売上高

(単位:百万円)



●たばこ販売機の需要が激減

前年同期にみられた成人識別機能付きたばこ販売機の需要が終息したことに加え、たばこの販売が自動販売機から店頭での対面販売にシフトしたことにより、たばこ販売機の需要が激減。

業績に影響した主な製品

↓ たばこ自動販売機



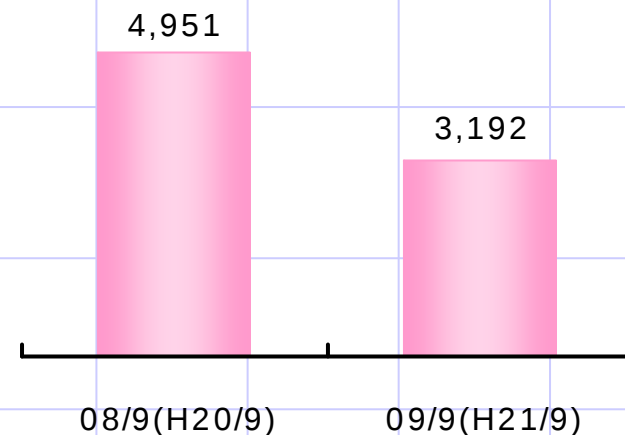
たばこ販売機
TNRシリーズ

(単位:百万円)

売上高	3,192	
前年同期比	▲35.5%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		4,951
総売上高 構成比率	5.0%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	1,709	1,483

売上高

(単位:百万円)



●カードシステムの販売が堅調

パチンコ店における人気遊技台の導入や、従来に比べてプレイ代金を低く抑えた低貸玉営業の普及により市場の活性化傾向が見られ、カードシステムの販売は順調に推移。

さらに、クリエイションカード(株)が業績向上に寄与。

業績に影響した主な製品

↑ ICカードシステム ・NASCA G8
・クリエイションカード NEO

「NASCA G8・クリエイションカード NEO」



デビット券売機
JCH-20



CRユニット
JCP-30



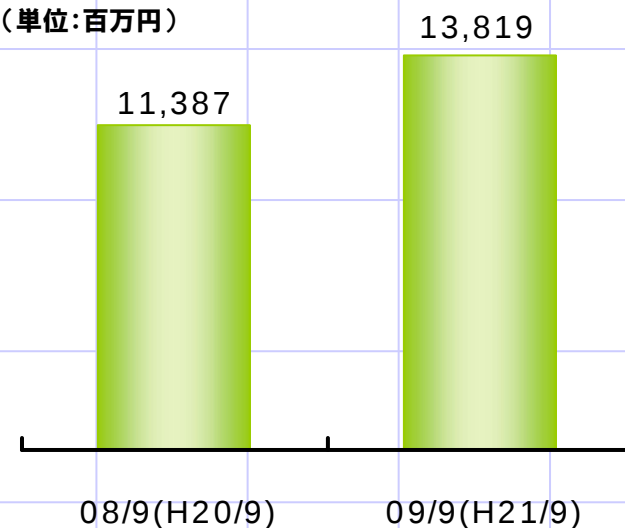
各台計数ユニット
JCTシリーズ

(単位:百万円)

売上高	13,819	
前年同期比	+21.4%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		11,387
総売上高 構成比率	21.5%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	6,448	7,371

売上高

(単位:百万円)



●各分野で設備投資抑制が継続

衆議院議員選挙の施行に伴い、選挙関連製品の販売が堅調に推移。

病院向け診療費支払機、社員食堂システム等の販売は低調。

業績に影響した主な製品

↑ 投票用紙分類機「GTSシリーズ」

↓ 診療費支払機「FKシリーズ」

↓ オートレジスター「PSAシリーズ」



投票用紙分類機
GTSシリーズ



診療費支払機
FKシリーズ



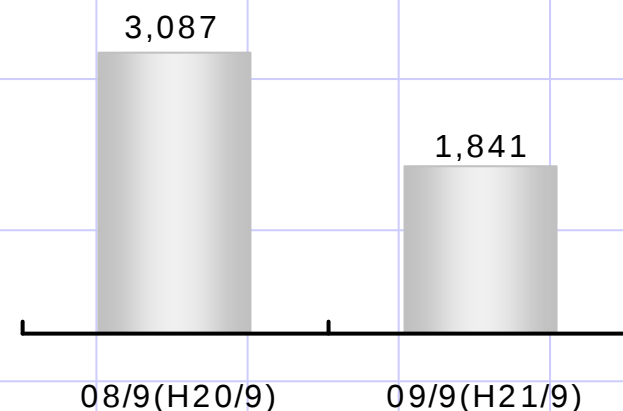
オートレジスター
PSAシリーズ

(単位:百万円)

売上高	1,841	
前年同期比	▲40.4%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		3,087
総売上高 構成比	2.9%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	799	1,042

売上高

(単位:百万円)



●成人識別関連の改造作業が減少

金融市場、流通市場では、新規製品導入店の増加により売上高は堅調に推移。

成人識別機能付きたばこ販売機への対応が終了したことにより、前年同期に比べ減少。

業績に影響した主な製品

↓ たばこ自動販売機の成人識別改造



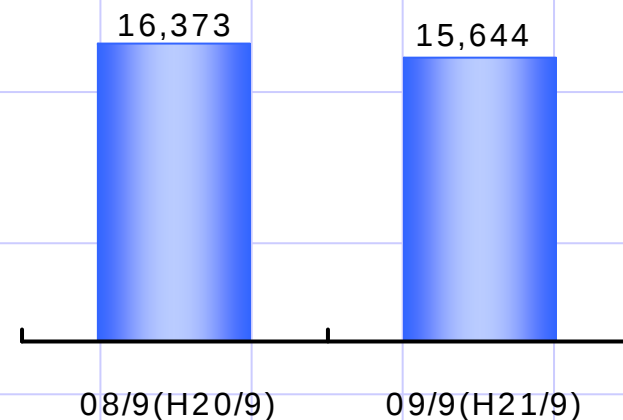
東京コールセンター

(単位:百万円)

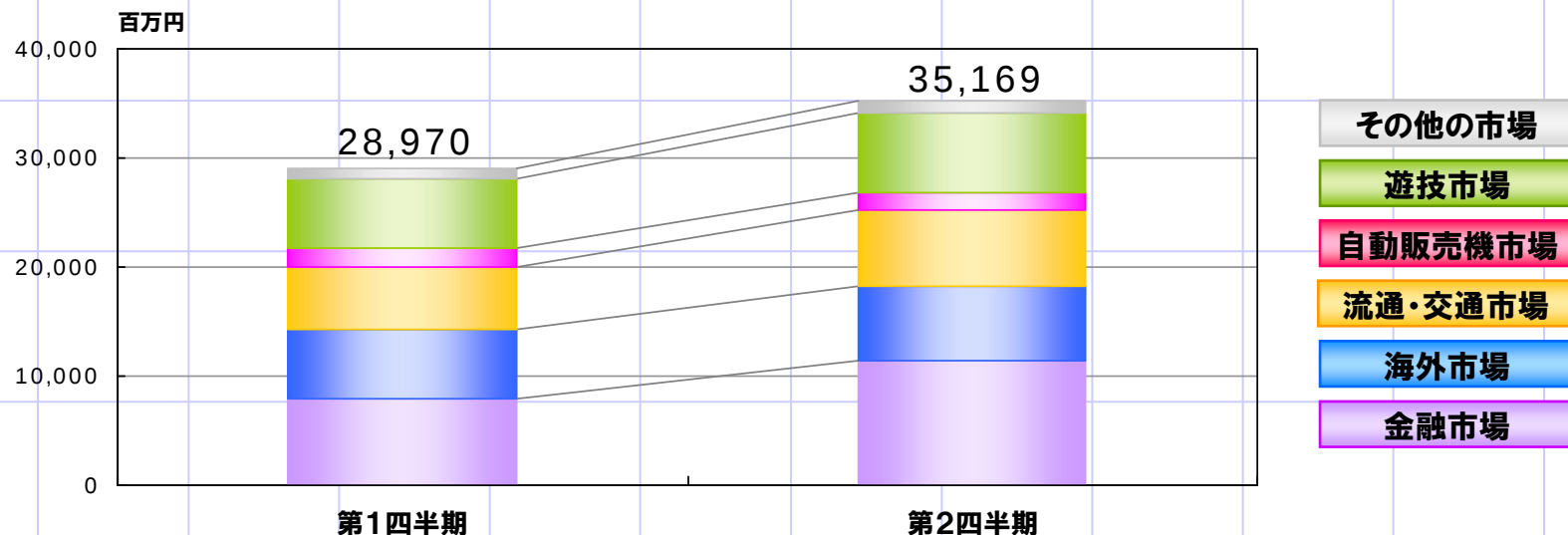
売上高	15,644	
前年同期比	▲4.5%	2009年3月期 第2四半期(累計) 市場売上高
		16,373
総売上高 構成比率	24.4%	2010年3月期 第2四半期(累計) 総売上高
		64,139
四半期 売上高	第1四半期	第2四半期
	7,857	7,787

売上高

(単位:百万円)



四半期毎の市場別売上高



2010年3月期	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第2四半期(累計)		
			実績	計画	差異
金 融	7,958	11,503	19,462	19,300	+ 162
海 外	6,376	6,687	13,062	14,500	▲1,438
金融機関 合計	14,334	18,190	32,524	33,800	▲1,276
流通・交通	5,680	7,083	12,763	13,000	▲ 237
自動販売機	1,709	1,483	3,192	3,200	▲ 8
遊 技	6,448	7,371	13,819	13,200	+ 619
その他	799	1,042	1,841	1,800	+ 41
合 計	28,970	35,169	64,139	65,000	▲ 861

損益計算書

(単位:百万円)

(百万円)	2009年3月期 第2四半期 累計期間	百分比 (%)	2010年3月期 第2四半期 累計期間	百分比 (%)	増 減
売上高	74,822	100.0	64,139	100.0	▲10,683
売上原価	46,470	62.1	41,902	65.3	▲4,569
販管費	21,504	28.7	19,594	30.5	▲1,910 ①
営業利益	6,848	9.2	2,643	4.1	▲4,205
営業外収益	829	1.1	1,304	2.0	475 ②
営業外費用	431	0.6	180	0.2	▲251
経常利益	7,246	9.7	3,767	5.9	▲3,479
特別利益	43	0.1	416	0.6	373
特別損失	351	0.5	529	0.8	178 ③
税金等調整前 四半期純利益	6,938	3.0	3,653	5.7	▲3,285
法人税等調整額	2,276	3.0	1,430	2.2	▲846
四半期純利益	4,661	6.2	2,223	3.5	▲2,438

①販管費 :コスト削減活動の成果により低下。ただし、売上高減少により比率はUP

②営業外収益 : 保険返戻金(486百万円)、受取配当金(194百万円)などが発生

③特別損失 : 投資有価証券の評価損(153百万円)や
設備機器などの固定資産除却損(160百万円)などが発生

●オープン出納システム市場の深耕



WAVE730シリーズ

オープン出納システムのポテンシャル（当社予測）

	大型店	中型店	小型店
メガバンク	導入市場 約15,000店舗	約14,000店舗	新製品 対象市場
地方銀行			
第二地方銀行			
信用金庫			
信用組合			
JAその他			
日本郵政			

※JAその他は、労働金庫、商工中金、農林中金など

「WAVEシリーズ」に
新たなラインナップを追加



WAVE C30シリーズ

■小型化

設置面積を約50%縮小(業界最小)

【C30】 幅 990mm×高さ1,320mm×奥行き720mm

【標準機】 幅1,700mm×高さ1,200mm×奥行き820mm

■フルリサイクル機能

標準機と同様に紙幣・硬貨ともリサイクル運用が可能

●海外事業体制の強化

■海外システム機器プロジェクト／案件の推進

- ・北米大手銀行向けプロジェクト推進中
- ・欧州リテールプロジェクト推進中
- ・中国の主要都市でプライベートショー開催
(2009年度上期)

■販売チャネル整備・拡大

- ・8カ国16代理店を新規開拓(2009年度上期)



●海外新製品戦略

■新商品の発売

- ・小型紙幣入金機
GFS-100シリーズ
(2009年7月)

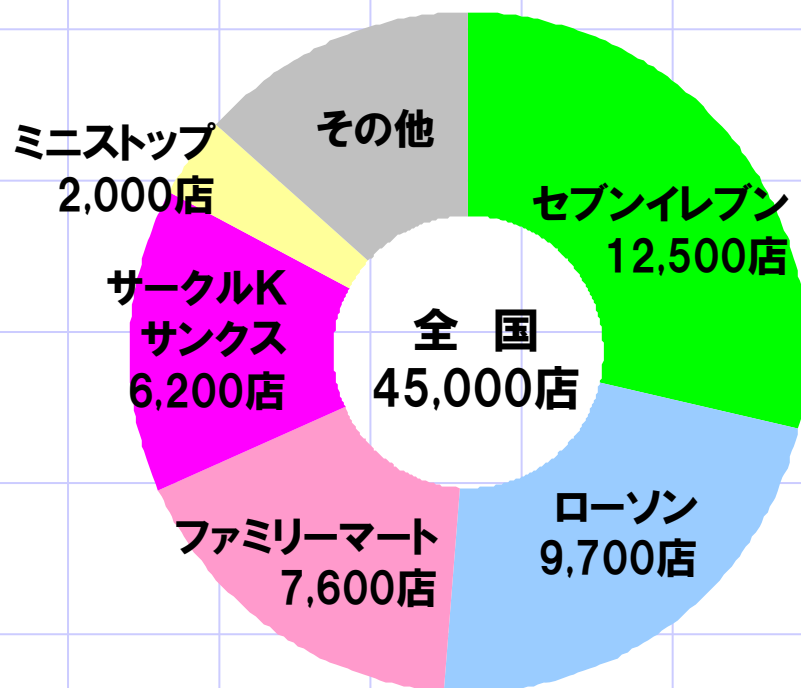


新規代理店(8カ国16代理店)

●つり銭機の未開拓業種への導入促進

■コンビニエンスストア

※ニーズは強いが流通業界の経営環境は厳しく設備投資分野を厳選



市場ポテンシャル

(09年11月1日現在 当社調べ)



【ご参考】

2008年度 JAN型POSシステム導入実態調査
(財団法人 流通システム開発センターHPより)

- ・2008年度は世界的な経済不況の中、新規導入店舗及び、新規導入台数が大幅に減少。また、リプレースサイクルが長期化。

導入台数 107,838台(前年同期比 ▲16,641台)

内 新規導入台数 19,000台(前年同期比 ▲24,000台)

リプレース台数 88,838台(前年同期比 +7,359台)

累計台数 1,115,000台(前年同期比 +19,000台)

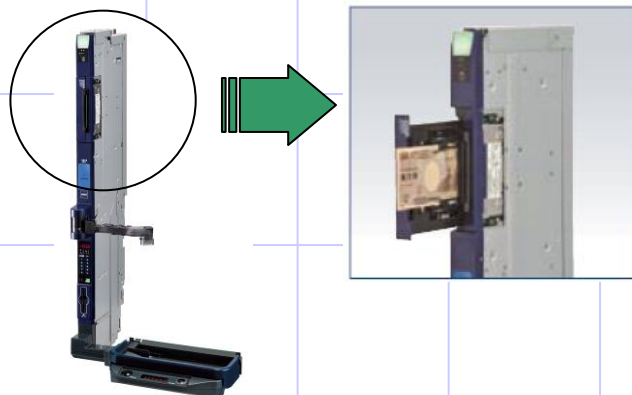
- ・業態別では「化粧品専門店」「自動車用品専門店」「ホームセンター・DIY・園芸用品」などで高い伸びを示す。

●カード市場のシェア拡大

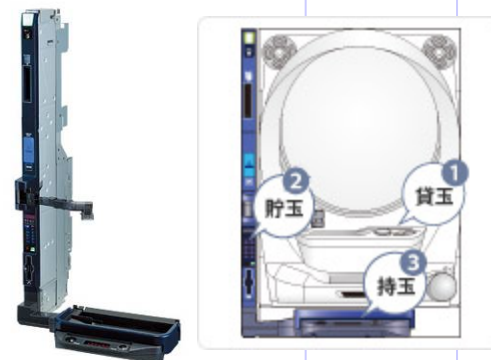
■新製品の発売

- ・NASCA G8 PAPIMO 各台計数機システム
 - ・クリエイションカード NEOLレス球
- (2009年7月発売)

- ・各台計数機対応紙幣ストックタイプのカードユニット
- (2009年10月発売)



紙幣搬送システムが設置できない都市部の駅前店など
設置スペースに余裕がないホール向け製品。



ホール向けカードシステム導入店舗数とシェア

社名	店舗数	シェア	
日本GC	4, 306	42%	
ナスカ	1, 258	12%	23%
クリエイション	1, 129	11%	
マース	1, 995	20%	
ジョイコ	1, 174	12%	
セタ	341	3%	
合計	10, 203	100%	

(2009年8月末時点)

2010年3月期 業績予想

売上高 景気低迷による投資抑制が続き、前年同期から減少。

利益 設備投資抑制や経費削減などに取り組むものの、前年同期に比べ減少。

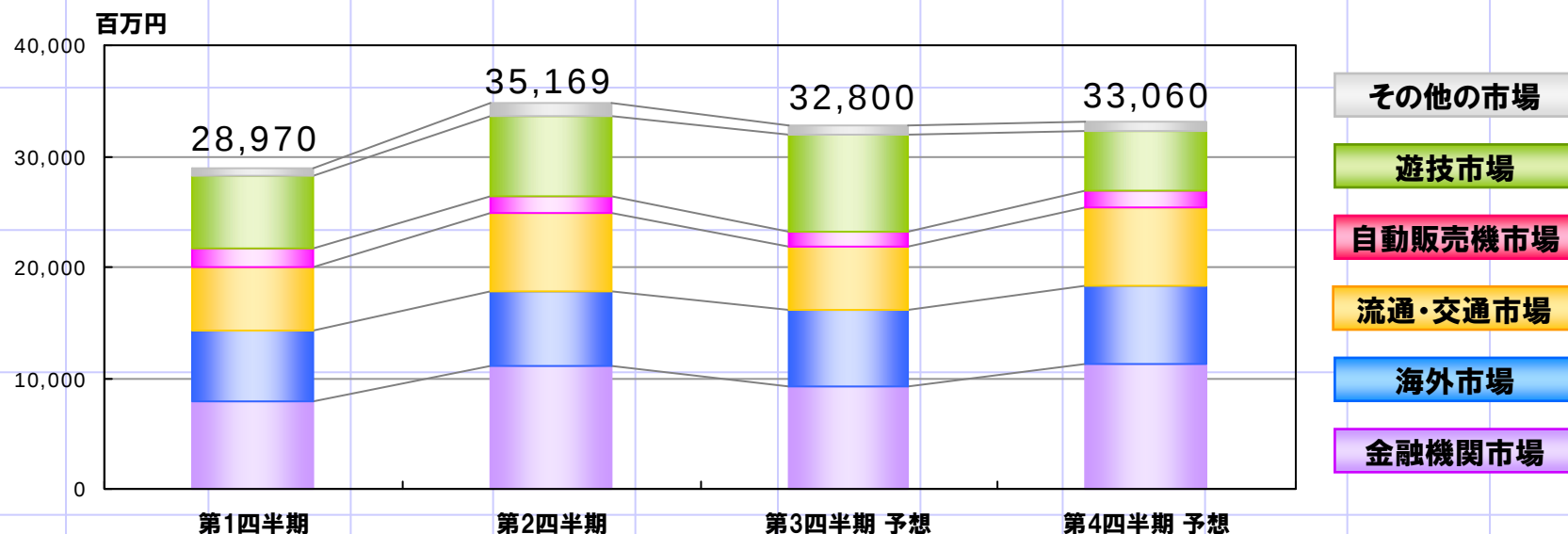
(百万円)	2009年3月期 (平成21年3月期)	2010年3月期 (平成22年3月期)	前年同期比	2010年3月期 予想 (2009年5月14日時点)
売上高	145,978	130,000	▲10.9%	140,000
うち 保守売上高	31,861 (21.9%)	31,500 (24.2%)	▲1.1%	32,000 (22.9%)
営業利益	9,426 (9.2%)	6,000 (4.6%)	▲36.3%	7,500 (5.4%)
経常利益	9,306 (9.7%)	7,500 (5.8%)	▲19.4%	7,500 (5.4%)
四半期純利益	5,782 (6.2%)	4,500 (3.5%)	▲22.2%	4,500 (3.2%)

市場別売上高

(百万円)	2009年3月期 (平成21年3月期)		2010年3月期 予想 (平成22年3月期 予想)		
	売上高	構成比	売上高	8月7日 公表値比	前年同期比
金融機関	45,829	31.4%	42,200 ➡ 40,000	▲5.2%	▲12.7%
海 外	32,784	22.5%	32,500 ➡ 27,000	▲16.9%	▲17.6%
流通・交通	28,191	19.3%	27,000 ➡ 25,500	▲5.6%	▲9.5%
自動販売機	7,486	5.1%	6,500 ➡ 6,000	▲7.7%	▲19.9%
遊 技	26,318	18.0%	28,000 ➡ 28,000	—	+6.4%
その他	5,370	3.7%	3,800 ➡ 3,500	▲7.9%	▲34.8%
合 計	145,978	100.0%	140,000 ➡ 130,000	▲7.1%	▲10.9%

※左側の数値は2009年8月7日公表値

四半期毎の市場別売上高



2010年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期 予想	第4四半期 予想	年間予想
国内金融機関	7,958	11,503	9,300	11,238	40,000
海 外	6,376	6,687	6,800	7,137	27,000
金融機関 合計	14,334	18,190	16,100	18,375	67,000
流通・交通	5,680	7,083	5,800	6,937	25,500
自動販売機	1,709	1,483	1,300	1,508	6,000
遊 技	6,448	7,371	8,800	5,381	28,000
その他	799	1,042	800	859	3,500
合 計	28,970	35,169	32,800	33,060	130,000

資本政策について 1

●2010年3月期の配当について

利益配分に関する基本方針

将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。具体的には

「連結自己資本配当率1.5%を下限とし、連結配当性向25%以上を目標とした利益配分を行う」

こととしております。

1株当たりの配当金	中間期末 実績	期末 予想	年間 予想
2010年3月期 (2009年5月13日公表)	16円00銭	17円00銭	33円00銭 (配当性向51.6%)

※自己株式の取得につきましても、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するために、適宜実施してまいりたいと考えております。

1株当たりの配当金	中間期末 実績	期末 実績	年間 実績
2009年3月期	15円00銭	15円00銭	30円00銭 (配当性向36.5%)

資本政策について 2

●自己株式の取得について

■自己株式取得理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

■取得内容

1. 取得対象株式の種類	普通株式
2. 取得した株式の総数	2,600,000株(発行済株式数に関する割合 3.7%)
3. 株式の取得価額の総額	5,226,000,000円
4. 取得方法	大阪証券取引所のJ-NET市場における自己株式取得
5. 取得日	2009年11月16日

※ご参考

2009年11月16日現在における保有状況

- ・発行済株式総数(自己株式を含む) 69,838,210株
- ・自己株式数 4,148,869株

●自己株式の取得について

過去の自己株式取得と消却の実績

1. 取得に係わる事項の内容	第1回目	第2回目	第3回目
1)取得した期間	平成19年5月18日 ～8月16日	平成20年2月7日 ～3月18日	平成20年9月1日 ～12月22日
2)取得した株式の種類	当社普通株式	当社普通株式	当社普通株式
3)取得した株式の総数	約139万8,000株 (発行済株式総数の1.88%)	約105万4,300株 (発行済株式総数の1.44%)	約340万0,000株 (発行済株式総数の4.74%)
4)株式の取得価額の総額	約39億9,590万円	約26億5,360万円	約60億0,000万円
2. 自己株式消却			
1)消却した株式の数	約139万8,000株 (発行済株式総数の1.88%)	約300万0,000株 (発行済株式総数の4.12%)	
2)消却日	平成19年11月9日	平成21年2月20日	
3)消却後の発行済株式総数	72,838,210株	69,838,210株	

構造改革の進捗状況

■成長事業への重点投資

海外事業への人員シフト

合計 34人(内社内シフト28人)

■海外生産シフト

・光栄電子工業(中国)へのシフト

小型紙幣入金機GFSシリーズ
窓口用紙幣入出金機RBUシリーズ他

・グローリーフィリピンへのシフト

ATM用紙幣入金ユニットUDシリーズ

■生産体制の見直し

国内拠点の統廃合

グローリー
エンジニアリング

⇒ 修理工場へ業態変更
生産は埼玉工場へ集約

■販管費の削減

コストカット活動(上半期実績)

2008/9販管費
215億円

⇒ 2009/9販管費
196億円(差異▲19億円)

■不採算事業からの撤退

不採算子会社の売却

マルエスGT(株)の売却(たばこオペレーション事業からの撤退)

設備投資について

● 光栄電子工業・第2工場建設(2009年7月竣工)

- ① 急成長する中国での販売拡大に伴い想定される、
中長期での増産に対応する。
- ② 本社製品の受託生産を通じグループ全体としてのコストダウンに貢献する。
- ③ 中国での調達機能を強化し、変動費の削減に貢献する。

【竣工後の生産能力】

生産能力 約2倍(年間工数30万H)



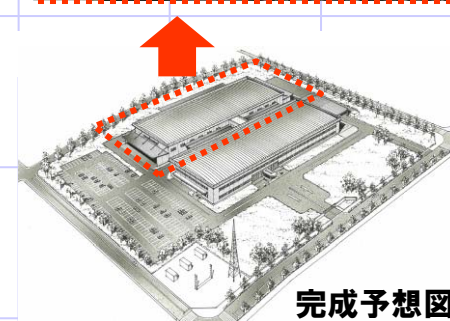
完成予想図

● 埼玉工場・第2工場建設(2009年7月竣工)

- ① 工場エリアを増床し、中期的な計画の生産規模に対応する。
- ② 海外調達の拡大に伴う、部品、ユニットのストックエリアとして利用する。
- ③ 埼玉ストックポイントおよび東日本の物流拠点として物流の効率化を図る。

【竣工後の生産能力】

生産能力 約1.7倍(2008年度 生産高145億円)



完成予想図

環境への取り組みについて

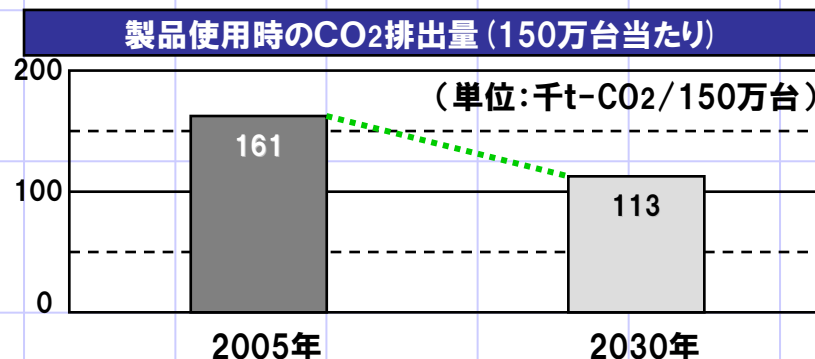
【グローリーグループ環境方針】

私たちは地球にやさしい行動と環境に配慮した製品の提供に全員で取り組みます

製品開発時の環境配慮

低炭素社会の実現に向けて、
2030年に製品使用時の
CO2を30%削減

(2005年実績比)



製品事例



窓口用入出金システムのユニット
RB-500シリーズ

消費電力
(当社従来機比)
15%
削減

RoHS
指令対応



オープン出納システム
WAVE C30シリーズ

消費電力
(当社従来機比)
15%
削減

RoHS
指令対応